校長室だより

2026年11月21日
丹波市立進修小学校長

音楽会を通して育つ子どもたちの力

～仲間と心を合わせ、一人一人が輝いた音楽会～



今日の音楽会では、子どもたちの素晴らしい歌声や演奏をお聴きいただき、ありがとうございました。

子どもたちは、この日のために一生懸命練習を重ねてきました。初めからうまくできたわけではありません。思うように声が出なかったり、楽器の演奏がうまくいかなかったり、友だちと音を合わせることが難しかったりすることもあったと思います。それでも、何度も繰り返し練習し、互いに声をかけ合いながら、少しずつ自分たちの音楽をつくり上げてきました。



私も練習の様子を見に行くたびに、子どもたちの歌声や演奏が上達していくことを感じました。それと同時に、友だちと相談したり、教え合ったり、よりよい演奏にしようと工夫したりする姿に、子どもたちの成長を感じました。特に６年生は、小学校生活最後の音楽会に向けて、仲間と声をかけ合い、自分たちの演奏を最高のものにしようとする姿が印象的でした。



音楽会で育まれる「目に見えない力」

音楽会の目的は、歌や演奏を上手に発表することだけではありません。音楽会に向けた取り組みの中には、これからの子どもたちの成長にとって大切な学びがたくさんあります。

例えば、うまくいかなくても諦めずに練習を続ける「粘り強さ」、目標に向かって自分の行動を調整する「自己調整力」、友だちの声や音を聴き、相手のことを考えながら協力する「協調性」、みんなで一つのものをつくり上げる「責任感」や「達成感」などです。



こうした力は、テストの点数のように数値で測ることが難しいものですが、社会の中で人と関わり、自分らしく生きていくために大切な力です。「非認知能力」と呼ばれる力も、その一つです。

音楽会では、一人一人が自分の役割を果たすとともに、友だちの音を聴き、互いのよさを生かしながら一つの音楽をつくり上げます。自分だけが頑張っても、素晴らしい合奏や合唱にはなりません。自分の思いを表現することと、仲間の思いを受け止めること。その両方があって、みんなでつくる音楽が生まれます。



頑張った自分を認め、次の一歩へ

今回の音楽会で、子どもたちはそれぞれに頑張り、挑戦し、成長しました。大切なのは、発表がうまくできたかどうかだけではなく、そこに至るまでにどれだけ努力したか、どんなことに挑戦したかということです。



ぜひ、ご家庭でも「上手だったね」という言葉に加えて、「一生懸命練習していたね」「友だちと力を合わせていたね」「難しいところも頑張ったね」など、練習の過程や子どもたちの頑張りを認める言葉をかけていただければと思います。

自分の頑張りを認めてもらうことは、自信につながります。そして、その自信が次の挑戦への意欲を生み出します。

音楽会で得た達成感や仲間と心を合わせた経験を、これからの学校生活にもつなげてほしいと願っています。

子どもたち一人一人の頑張りに、大きな拍手を送りたいと思います。



保護者、地域の皆様には今後も子どもたちの見守り、学校教育活動へのご理解・ご協力を引き続きよろしくお願いします。最後に残って片付けを手伝っていただいた PTA 役員の皆様、本当にありがとうございました。



